

相模網代崎沖灯浮標（通称赤白ブイ）撤去に関する説明会

三浦 OSC メンバー各艇の港への安全な出入りに重要な相模網代崎沖灯浮標が海上保安庁の中で撤去対象にリストアップされ、その説明会が開かれたので報告いたします。

日時：2016年1月15日（金曜日）午前11時～12時30

場所：シーボニア マリンクラブ

海上保安庁からの出席者：

第三管区海上保安本部 交通部 計画運用課長 品野 馨氏 他3名、

マリン関係出席者：三浦 OSC 理事監事 尾山、平松、外山、関根、今北、児玉（敬称略）

外洋湘南、外洋三崎、油壺 YC 各会長、シーボニア YC メンバー、リビエラリゾート、京急マリン 総勢40名ほど。

説明会内容：

品野氏より、今後の航路標識整備について という資料を基に、航路標識の現状、今後の計画等の説明を受けた。（AIS 信号所、バーチャルブイ等）

相模網代崎灯浮標（以下赤白ブイ）は、事業仕分け、会計検査院からの指摘に基づいて全国368か所、第三管区内で41か所が撤去リストに載っている灯浮標の1つである。赤白ブイに関しては、亀城礁灯台、諸磯崎灯台によって航路標識は補完されていることと、漁業従事者の減少によって利用者をベースとした利用度点数低い事が撤去検討での根拠となっている。

一部質疑ではあるが、維持費は4年で300～400万円ほど、代替え浮標を用いてメンテナンスを行うため、小型のものに変えるなどではコスト削減にはならない。

41か所のうち赤白ブイの撤去優先順位は開示できない。

署名運動等でリストからの削除、撤去の撤回になるかとの質問に対しては、本庁等の注意を引いてしまい、逆に目立ってしまうので、避けていただきたいとの事。

三浦 OSC 他からの意見：

赤白ブイは、我々ヨットやモーターボートの安全な航海、特に夜間の入出港において極めて重要である。また、昨年来、小網代沖定置網の夜間視認性が悪く、管轄の神奈川県水産課に改善をお願いしているところである。そうした状況下での撤去は安全性を著しく低下させる事となり、受け入れがたい。油壺湾への入出港に関しても、岩礁、定置網を避けるうえで、不可欠であるとの意見が出された。

AIS等の計器の普及もまだ小型のヨット、漁船では進んでいないため、現時点での赤白ブイの代替えにはならない。

撤去プロセス：

利用者への説明、同意が必要であり、それなくして撤去は行わない。しかし、リストに載った以上撤去の方針には変わり無く、こうした説明を又行うことになるとの事。

海上保安庁は我々の安全な航海、救命の観点から極めて重要な機関であり、紳士的に有効関係を維持しながら、今後も迅速に対応していく必要があると感じた。

また、平松 JSAF 理事を通じて全国の各団体に注意喚起を行う等の対応を頂く事となっている。

(尾山記)